

## 小金井農業のあゆみ（昭和初期・中期）

昭和初期の小金井農業は様々な世界情勢や全国的な不作の影響で専業農家が減少していきました。畑作以外では、養鶏、養豚に続く酪農が始まっています。

一方、小金井の地域に工場建設や学校移転が多く行なわれ、この頃に政府は大緑地計画を決定し、整地を行なった。これが現在の小金井公園です。こうした戦前・戦中期の工業の発展や宅地化の流れは農業の作付けにも大きな影響を及ぼしていった。



A:水田 B:普通畑 C:樹園地・桑畑・竹林・植木 D:雑木林  
E:農業集落 F:市街地・宅地 G:社会施設 H:工場・変電所  
I:公園・墓地・ゴルフ場 J:不作付地

土地利用状況（昭和14年）

戦中は配給統制化にあって食料不足が深刻化すると、荒れた荒野や空地までも開墾し、米・麦・芋・カボチャ等あらゆるものが栽培されています。また、穀類を主食とする養鶏は困難となり、草だけでも育つ兎・山羊・アヒルが提唱されています。

戦後の農業は、戦前に比べて耕地の減少荒廃がひどく、作付け地が減少し、食糧確保の為にあらゆる耕地は利用された。生産も穀類から野菜へ移行する方が多かったが、植木や温室等による花卉園芸も盛んに行なわれています。この頃、東京都内でもっとも早い植木の団体「小金井町苗木生産振興会」が発足し、現在の名称は、「小金井市植木苗木生産振興会」と称しています。



A:水田 B:普通畑 C:樹園地・桑畑・竹林・植木 D:雑木林  
E:農業集落 F:市街地・宅地 G:社会施設 H:工場・変電所  
I:公園・墓地・ゴルフ場 J:不作付地

土地利用状況（昭和23年）

昭和30年を過ぎると市制施行や国鉄武蔵小金井電車の開設に伴い、大規模な住宅団地が建設されました。その周辺には商店ができ、バスが運行されるなど便利になっていくとその周辺に一戸建て住宅やアパートなどが建設されこの時期は急速に都市化が進みこの時期から専業と兼業とに区分される農家で構成されると同時に農地が減少しています。



A:水田 B:普通畑 C:樹園地・桑畑・竹林・植木 D:雑木林  
E:農業集落 F:市街地・宅地 G:社会施設 H:工場・変電所  
I:公園・墓地・ゴルフ場 J:不作付地

土地利用状況（昭和40年）